

三陸沖地震

「長周期」都内でも揺れ

都庁エレベーター一時停止

9日昼前に三陸沖で発生し、宮城県内で震度5弱を記録した地震の影響で、48階建ての東京都庁第一庁舎(新宿区、高さ243.3メートル)

ではエレベーター40基が一時停止した。都庁のある新宿区は震度2だったが、超高層ビルなどを大きく揺らす「長周期地震動」で揺れが大きくなったとみられる。

同庁舎では地震発生後に揺れを感じるセンサーが作動して、エレベーター42基のうち、地下駐車場に設置された2基を除く40基が管制運転となり、近くの階に自動停止。乗客を降ろした後、揺れが収まるまで数分間止まった。同庁舎には職員らの移動用のほか、展望室直通の観光客用のエレベーターもあるが、中に閉じこめられた職員や観光客はいなかった。

長周期地震動は、周期2秒以上のゆっくりとした揺れをいう。東京大学地震研究所(文京区)に設置された

地震計が周期2.5秒のやや大きい揺れを約5分間観測していた。

長周期地震動は遠くまで揺れが伝わり、大規模建造物を大きく揺らす。震源が浅く、規模が大きい地震で発生し、厚い堆積層で覆われた平野部で増幅しやすいという。

同研究所の（たけな）額田一也教授